

第2回坂東PA関連事業に関する整備方針検討委員会（概要）

■日時：令和2年1月24日（金）14：45～16：15

■場所：坂東市役所 3階 大会議室

■出席者：委員

納口委員長・鈴木清副委員長・張替委員・後藤委員・石川委員・
鈴木功委員・荒木委員・長妻委員・應本委員・永塚委員・平勢委
員・野口委員・北島委員・山口委員・金久保委員・鈴木博委員・
奥貫委員

オブザーバー委員

開地委員・長谷川委員・赤羽委員（代理：茨城県政策企画部地域
振興課 宇都宮総括）・桑名委員・長山委員（代理：茨城県土木
部道路維持課 菊田主事）・高橋委員（代理：茨城県土木部道路
建設課高速道路対策室 大岡係長）

（欠席：橋本委員、渡邊委員、加藤委員）

市・事務局

高橋都市整備課長・植本副参事・張替係長・小澤主幹・中山主幹

※視察研修：ららん藤岡（群馬県藤岡市）（9：00～14：40）

●議事

（1）第1回委員会の振り返りについて

前回示した市の現状・課題・施設の方向性について再度整理を行い、併せて整備イメージとしてハイウェイオアシスの事例を整理した。

（2）施設規模の試算について

施設規模について、類似施設の交通量、利用者数からの推計及びハフモデルを用いた推計により、年間利用者数とともに試算を行った。

（3）ゾーニング及び配置計画（案）について

施設のゾーニング及び配置計画（案）について、平常利用時と災害発生時の2パターンに分けて、作成した。

●意見交換での主な内容

施設規模の試算について

- 施設全体としては収益を上げる必要があるが、ららん藤岡の花の交流館のような地元の人に無料に近い形で利用いただけるスペースも必要である。
- 市場調査に関して、より専門的な方に調査を依頼するとともに、様々な要因を想定し、詳細な数字を定める必要がある。
- 施設の規模感や成功事例について、より検討・調査を行っていく必要がある。また、施設の内容だけでなく、施設に関連する事項（農業の後継者不足問題）についても対策を行う必要がある。
- 桜の里山のスペースに、あけぼの山農業公園（千葉県柏市）のように年間を通して花を楽しめるスペースがあれば利用者数の増加が見込まれる。
- 周辺施設や類似施設に関しては、今後の委員会で、利用者の推移や施設規模を示す必要がある。
- 圏央道の大型車の利用割合については、工場立地が進んでいるため、今後の推移としては増えていくことを考慮する必要がある。

ゾーニング及び配置計画（案）について

- 直近のPAの江戸崎PAにはトイレしかないため、施設の配置計画によっては、効果的な運営が期待できる。特に、トイレのみを使って帰らないようトイレの配置計画については、工夫が必要である。
- 外回り線の駐車場と施設が離れており、利用しづらい。今後の詳細な検討において利用しやすい配置計画が望まれる。
- 災害時の避難所に関しては既に他の場所もあるが、大規模災害等に備え、避難所の機能を備えた施設計画とする。
- 利便施設側の集客数を増やす方法として、高速道路側にトイレを整備しない方法もあるが、坂東PAは、観光客の方のみならず通過交通として多くの方の利用が予想され、高速道路側にもトイレを設けたほうが良いとの議論もある。このため、総合的な観点からトイレの配置については検討する。

その他の意見

- 若い女性の方等、地域利便施設で働きたいと思っている人もいることから雇用面で期待している方もいる。
- ららん藤岡のように、観覧車やガトーフェスタハラダのような目玉となるような施設を誘致し、又はそうした施設を育てていくことが必要である。
- 多くの地元の人に使っていただける魅力ある施設にする必要がある一方、事業費の財源についても膨大になることが考えられるので慎重な検討が必要である。
- 誰が運営を行うのかという点について、議論する必要がある。
- 施設の運営に関して、経営状況が良い時はそのままでも良いかもしれないが、悪い場合についても考える必要がある。

(以上)